



## 主な内容

三笠宮崇仁親王殿下薨去 .....	1	第 22 回ソウル国際図書展 .....	4
第 26 回アブダビ国際図書展・		第 68 回フランクフルト・ブックフェア ..	6
第 29 回テヘラン国際図書展 .....	1	2017 年に開催される主な国際ブックフェア ..	9

## 国際ブックフェア出展ご案内

### ■ 第69回 フランクフルトブックフェア2017

会期:2017年10月11日(水) ~ 15日(日)

ジャパンパビリオンへのご出展をぜひご検討ください。締切りを3月31日といたしました。4月17日(月)までお受けいたします。先にご出展のご案内をお送りしましたが、再送をご希望の場合は本会までご連絡ください。また [www.pace.or.jp](http://www.pace.or.jp) でもご覧いただけます。4号館の中のベストロケーション、ブースデザインの一貫化等により高い評価をいただいた昨年度の概要が6頁に掲載されています。どうぞご参考までに一読いただければ幸いです。

### ■ 第23回ソウル国際ブックフェア2017

会期:2017年6月14日(水) ~ 18日(日)

ご出展申込みを受付中です。昨年度の概要が4頁に掲載されています。ご参考にさせていただきたいと存じます。

## 三笠宮崇仁親王殿下薨去

出版文化国際交流会が設立された1956年(昭和31年)より2010年(平成22年)まで50余年の長きにわたり本会の名誉会長を務めていただいた三笠宮崇仁親王殿下が2016年10月27日薨去されました。謹んで哀悼の意を表します。

11月4日、葬儀にあたる斂葬の儀が豊島岡墓地で執り行われ、本会の竹内会長と横手専務理事が参列しました。

## 第26回アブダビ国際図書展 第29回テヘラン国際図書展

報告:出版文化国際交流会 佐藤佳苗

### ■ アブダビ

会 期:2016年4月27日~5月3日

会 場:アブダビ国際展示場

主 催:アブダビ観光文化庁

出展社数:1,260社

参 加 国:63カ国 エジプト、シリア、レバノン、  
イタリア等

入 場 者:約27万人

### ■ 図書展会場

独立行政法人国際交流基金と出版文化国際交流会との共催による国際図書展参加プロジェクトでは近年、中東湾岸協力会議(GCC) 諸国への出展に力が入れている。アラブ首長国連邦(UAE)のアブダビもその一つで、今回が5回目の日本ブース出展だった。

世界最大のビジネス・ブックフェアであるフランクフルト・ブックフェア主催者が共同出資しノウハウを伝え、このアブダビ国際図書展を中東・北アフリカ諸国における出版ビジネスや読書推進の中心とすべく力を入れている図書展でもある。

非常に裕福な国であることを反映して、図書展会場でも国内政府機関ブースの多さと、それぞれの大きさ・豪華さにまず目を奪われる。図書展事務局配布パンフレット類もすべて書籍の装丁でフルカラーと立派だし、購入した図書を持ち運べるキャスター付きのケースも無料で配布されるなど、ふんだんにお金がかけら

れている。民間エリアでは地元 UAE と並んでエジプト、シリア、レバノン等地中海沿岸中東諸国の出版社・書店ブースの多さが目についたが、中東ではそれら地中海沿岸諸国が古くからの文化大国・出版大国で、一方アラビア半島の GCC 諸国は石油発掘後裕福にはなったものの、つい 30、40 年ほど前までは砂漠での遊牧生活しかなかった地域のため、文化や教育についてはまだまだこれからということだ。図書展でも様々な読書啓蒙イベントが行われ、政府も生徒・学生を対象に 1.5 億円分の図書クーポンを配布したという。



読書推進イベントをしていたザイード大学の学生さんたち

### 著作権引き等

UAE のある出版社社長から、とある日本の児童書を見て内容が大変気に入ったのでぜひアラビア語で出したいのだが、事情があり日本の著者が翻訳出版を許可してくれない、何とか助けてほしいと言われ、現地であって詳細を聞いた。「良質な児童書が圧倒的に少ない当地では、外国からよいものを積極的に取り入れて、UAE はもちろん、広くアラビア語圏の子供たちに紹介していきたい。UAE や GCC 諸国はここ数十年で一気に富裕国となったが、文化や教育の充実はまだこれからという状況で、子供の人間形成、道徳、読書推進活動などに現在国を挙げて取り組んでいる最中なので、ぜひ日本にも力を貸してもらいたい」とのことだった。帰国後、日本側出版社に掛け合って著者の許可は無事得られ、現在翻訳出版の話が進められている。

アラビア語は世界で 3 番目に多くの国・地域で使用されている言語だが、日本からは地理的・文化的に遠く、なじみのないイスラム圏ということもあって日本の本の権利はこの地域にはまだほとんど販売されていない。国が充実した支援を提供しているところもあることだし、今後有望な地域であるのは間違いないの

で、引き続き情報収集に努め日本の図書普及を目指していきたい。

図書展ではシリアの出版社ブースもたくさん出展していたので、「お国が大変な状況だという報道を連日耳にしているが」と声をかけると、「確かに大変な地域もあるが、そこ以外では普通の暮らしをしているよ。出版社も書店も普通に店を開いて仕事をしている。」と言われ驚いた。さらに驚いたのは、日本から来たという「日本の本もあるよ」といくつかシリアブースに連れて行かれ、古事記から大岡昇平まで様々な日本の作品のアラビア語版を見せられたことだ。そういえば私がたまたま話しかけたレバノン出身で現在はアブダビで働いているという来場者も、日本の古典作品をよく知っていてびっくりした。シリアとレバノンが出版大国というのも思わずそれだけでも納得してしまいそうになり、どんな国なのか興味が膨らむ。



アラビア語版日本文学

ドバイにある紀伊國屋書店ドバイ店ではマネージャーの浦本杜若さんをお訪ねし、日本が参加する中東諸国でのブックフェアすべてに出展し日本ブースの展示本も販売いただけるよう、あらためてお願い申し上げた。その他イスラム圏での展示や販売に際して、イスラム教に反することになるため注意しなければならない点が実際の程度までは許容されているのかについてなど（女性のイラストや写真、豚肉、アルコール、他宗教、恋愛もの等）、様々にご教示いただき大変有意義な面会となった。

### 所感

UAE はアラブ圏ということで、行く前はアラビア語ばかりだと覚悟していたがとんでもなく、ここは英語圏かというほど街中でも仕事でも英語が普通に使用されていた。表記もすべて英語併記。UAE 国籍者は人口の 1 割に過ぎず 9 割が外国人、そのうち 4 割が

インドとパキスタンから来ているためだそう。彼ら外国人労働者も含めて、所得税等の税金が存在しないという誠にうらやましい国でもある（消費税は2018年から導入予定とのこと）。UAE国籍者ならばさらに、教育・医療・老後もすべて無料で何の心配もいらなだけでなく、結婚したら国が新居をプレゼントしてくれるそうで、こんな国も世界にはあるのかとため息が出てしまう。

## ■テヘラン

会 期：2016年5月4日～14日

会 場：シャフレ・アフターブ

主 催：Iran Cultural Fairs Institute

出展社数：国内 2,400社 国外 3,600社

参加国：21カ国 ロシア、中国、インド、トルコ、シリア、イタリア等

入場者：約510万人

## 図書展会場

イランへは長年にわたって出展しているが、今年はこれまで街の中心にあった会場が郊外へと移転され、アクセスの悪さから来場者減が当初懸念された。しかし会場への地下鉄もバスも超満員、市内とを結ぶ道路ではマイカーの「図書展渋滞」も発生し、相変わらずの人気ぶりだった。公式入場者数が500万人とあまりに多すぎたのでこれまでその数字を疑っていたが、行ってみて納得した。年齢や職業などに関係なく皆が春のピクニック感覚で出かける、国を挙げての一大イベントらしいのだ。宗教的、政治的に様々な制約がある中、図書展はおおびらに楽しめる数少ないイベントという背景がある。

## 著作権取り

イランも昔からの文化大国らしく、国民的詩人たちの作品を皆がそらんじていたり、テヘランには神保町のような本屋街もあったりして詩や本に親しむことが浸透している。ただ日本をはじめ外国にとって問題なのは、イランに作品を売ろうと思っても、国として著作権保護条約に加盟しておらず著作権が守られない可能性があるということだ。WTOへ加盟しても同様の扱いとなるが、どちらもイランは現在加盟準備中で、実現にはまだ年月がかかる見込みとのこと。しかし出版社の中には世界基準のやり方をしているところも

ちろんあり、そういう社はすでに日本をはじめ外国との著作権取りもしているという。今回の出張でもイラン政府や出版界の人にまずは基本となる法整備をと要請してまわり、その後もし続けている。

後日談だが、法の整備には時間がかかる見込みとのこと、まずはすぐにできることから始めようと、きちんと権利処理をする出版社を選んで日本の主に文学作品をペルシャ語で翻訳出版するというプロジェクトを在東京イラン大使館文化センターから提案され、まずは20点ほどを目安に現在進めている最中である。

## 日本ブース

アブダビ、テヘラン共に日本ブースは様々な分野の図書を展示し、多くの来場者が楽しんでくれた。アブダビでは日本ブースの裏側に紀伊國屋書店ドバイ店がブース出展し、人気商品を取り揃えいつもにぎわっていた。イスラム圏ではあるが、世界的に人気の日本のコミックやイラスト集なども普通に大量に販売されていたのは意外だった。特に若い世代が熱狂的に群がっているのも世界共通である。イランでは古代ペルシアを想定したという講談社のコミック『アルスラーン戦記』が大変な人気だそうで、何人もからペルシャ語版を読みたいと切望された。出版社様には今後ご検討いただければ幸いである。経済制裁の影響で送金システムに問題があって実現していなかったテヘラン日本ブースでの図書販売も、在東京イラン大使館がイラン政府として全面的なバックアップを申し出てくださり、現在調整中だが、ぜひ実現させたいと思う。



テヘランでの日本ブース

テヘランでのブースアテンダントは全員テヘラン大学日本語専攻修士課程の優秀な学生さんたちで日本語も大変堪能。そのうちの一人、ザハラさんはまずは日

本で博士課程を修了し、将来は大学教授を目指したいと語ってくれた。彼らのような人たちが今後、日本の図書をペルシャ語で翻訳出版する際、質のよい翻訳を担ってくれる人材となるに違いない。



アブダビでの紀伊國屋書店ブース

### 所感

ビザ取得に始まり、事前にネット上であるいは外国からホテル予約ができない、現地でもクレジットカードが一切使用できない、yahoo、google、facebook、Line等のネット閲覧が不可でメールができない、数字がイラン独特のもので読めない等、訪れる際のイラン特有の事情には本当に不便を感じた。また同じイスラム圏でも UAE は外国人ならば普通の服装で構わないしスカーフも不要なのだが、イランは外国人でも女性は身体のラインを隠すコートとスカーフの着用が義務づけられる点が、何よりも煩わしかった。暑い時、体調がよくない時は特に。

イランへ行くなんて危ない、テロに巻き込まれたら、誘拐されたらどうする、ツアーではなく個人で、ましてや女性の一人出張なんてとんでもない、と言われつつ出発したが、そういう意味で危ないということとはまったくなく、逆に人々が本当に人懐こく、おせっかいとも言えるほど親切で非常によい印象を持った。よそ者として道を歩いていると大勢の人から次々声をかけられて煩わしくもあるが、時には彼らと長々と話し込んだり、道端でピクニックしている家族からいっしょに座ってお茶を飲んでいきなさいと誘われたり、旅行するにはまだ不便な国だが、人がとても魅力的だ。

上記のシリアやレバノン同様、イランも危ない、怖いという悪いイメージばかりが現在広まっているが、私が話をした人たちは皆気さくで親切だったし、やはりメディアによる情報を鵜呑みにせず、機会があれば実際に人々と会って話をしてみる、それが無理ならば

なるべく相手の事をいろいろと知ろうとする姿勢が互いに必要なかもしれない。

UAEでもイランでも、今後日本の本を現物も権利としても広めていく手がかりを大いに得られ、非常に有意義な滞在となった。在 UAE 日本大使館の鈴木さん、在イラン日本大使館の若林公使、高橋さん、大曲さんには様々な現地事情をご教示いただいた。ブースアテンダントの皆さん、大勢の現地出版社・政府関係の方々、大川さんはじめ国際交流基金の皆様にも心より感謝申し上げたい。

## 第22回ソウル国際図書展

報告：出版文化国際交流会 佐藤佳苗

- 名称：Seoul International Book Fair  
会期：2016年6月15日(水)～19日(日)  
会場：COEX(韓国総合展示場) Hall A  
主催：大韓出版文化協会  
出展社数：国内 224 社 (昨年 197 社、一昨年 231 社)  
海外 131 社 (昨年 106 社、一昨年 138 社)  
参加国：20 カ国 (昨年 15 カ国、一昨年 22 カ国)  
フランス、イタリア、中国、台湾、トルコ、ドイツ、アメリカ等  
入場者：103,214 人 (昨年 101,354 人、一昨年 130,957 人)  
カルチャーフォーカス国：フランス  
スポットライト国：イタリア

### 図書展会場

昨年は SARS のため会期が例外的に 10 月へとずれしたが、今年はまたいつもの 6 月、会場も以前と同じ広いホールへ戻っての開催。しかし国内出展者数は昨年よりは持ち直したものの一昨年には及ばず、総入場者数も昨年よりは増加したが一昨年より 2.8 万人弱も少ないままという結果だった。今回どうなるかと注目していた販売割引は図書展においても結局また適用外とはされず、国内書は定価販売のまま。国内出版社も来場者も、以前ほど出展や会場に足を運ぶことのメリットを感じられなくなっているのだろう。講演会・イベント用スペースが明らかに増やされ、広さの戻った会場を埋めていた。海外からの出展者数は一見持ち直したように見えるが、実際には主催者から無料招待され

出展参加したという社も 20 社ほどあり、奥の通路は  
版權売買ミーティングをするエージェントや出版社の  
最小ブースがずらりと並んだ。平日の 3 日間はここ  
だけ見たらソウルは B to B 図書展かと間違ふほど商  
談が活発に行われていたことが今年の特徴だが、図書  
の販売割引ができなくなったことで一般来場者向けだ  
けではなく B to B にも力を入れ始めたらしく、図書  
展の方向性や果たすべき役割をまさに模索している最  
中と言える年だった。隣接会場では今回初めてデジタ  
ルブックフェア（来場者約 2 万人）も同時開催され、  
図書展と自由に行き来できるようになっていた。今後  
どのような図書展にしていくのか、試行錯誤が続いて  
いく様子だ。



今回の図書展  
テーマのひとつ、  
「訓民正音」



ずらりと並ぶ  
商談ブース

昨年テーマ国だったイタリアが中途半端にしか出展  
できなかったためか、今年「スポットライト国」とし  
てまた取り上げられ、そして「スポットライト国」が  
あるためかテーマ国の設定は今回なく、「カルチャー  
フォーカス国」としてフランスが選ばれていた。とも  
に作家の講演や専門セミナーなどが行われた。

しかし土・日に関しては来場者数も昨年より大幅増  
で、一昨年並みまでしっかり回復した。国内書の販売  
割引がなくても、本が好きで見て回るのを楽しみにし  
ている層はやはり必ずいる。また法の適用外となる輸  
入英語図書などは 50%、70% 等大幅割引され大勢の  
人が買い求めていた。広報大使の詩人シン・ダルザ氏  
の朗読や対談、ブッカー国際賞を受賞した韓国の作家  
ハン・ガン氏の作品『菜食主義者』が特に注目されて  
いた。

日本からはポプラ社、トーハン（その中にあさ出版、  
NHK 出版も）が独自ブースを設け活発に商談をし、  
朝日新聞出版、岩崎書店、ダイヤモンド社が主催者招  
待で小ブース出展をした。韓国に対しての日本の版權  
輸出は好調なため、主催者がこの図書展を商談の場と  
していく方向で動いているのであれば、1 m 幅ブース  
からあるので日本の関係者もぜひ出展し韓国でのビジ  
ネスに挑戦していただきたいと思う。フィクションに  
加え、実用書、自己啓発・学習、健康等のジャンルの  
需要が多いとのことだ。

## 日本ブース

独立行政法人国際交流基金と出版文化国際交流会  
の共催で設けた日本ブースは今年も様々な本を展示  
し、土・日には大勢の来場者が詰めかけた。現地書  
店の教保文庫による日本の図書販売（20%引き）は  
11,612,060 ウォンで昨年並みの売り上げ。書店の手  
続きの問題で今回は在庫を揃えられなかった本が多数  
あったようなので、次回は改善を求めたい。

今回通路に面した目立つ場所に布絵本や飛び出すし  
かけ絵本などを置いたところ、小さな子供や中高生た  
ちはもちろんのこと、大人も手に取って長時間楽しん  
でいたし、「リラックマ」や「ぐでたま」といったキャ  
ラクターの本も相変わらずの大人気で、遠くから見つ  
けて「きゃあ、リラックマー！」と叫びながら駆け寄っ  
てくる人たちがたくさんいた。

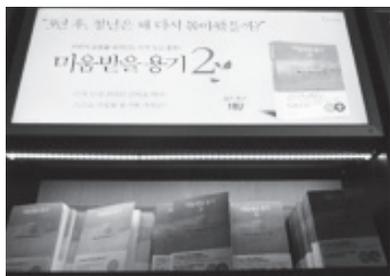
小説類では「心が楽しい気分になる本を買いたい  
のだが」「日本語教師をしている友人への誕生日プレ  
ゼントを探している」「日本語を習っているのだが読む  
のに適当な本はどれか」「日本で一番人気の本は」「韓  
国でも絶対売れると思われる本は」等、一般・業界の  
方を問わずお薦めを聞かれることが多く、あらずじな  
どをひとつひとつ詳しく説明することもよくあり、い  
つものことながら展示する本を事前にしっかり読んで  
おいてよかったと胸をなでおろした。毎回必死に読んで  
いるが、それでもソウル向けは展示図書も多数のため  
とてもすべてを読むことはできないのだけれど。この  
ように来場者が日本語の文字だけの分厚い小説やノ  
ンフィクションを、中身を吟味した上で次々購入して  
いってくださることに本当に感激する。他国の図書  
展ではそこまで日本語ができる人は少なく、展示図書  
も英語版や写真・イラストが多用されたものを求めら  
れることがほとんどなので、韓国は本当に例外中の例

外だ。日本語がわかる人が多く、またそのレベルが非常に高い。



にぎわう日本  
ブース

さらに日本語能力だけでなく、日本の図書に対する関心も高い。韓国「本と社会研究所」代表のペク・ウォンゲン氏によると、2015年に発行された翻訳書新刊のうち日本の図書の割合は42%、国内書を入れた新刊総発行点数の9%にもなるという。新刊書の10冊のうち約1冊が日本の図書というのはものすごいことではないだろうか。韓国最大手書店、教保文庫2015年の総合売上1位、それも51週連続第1位という新記録を打ち立てたのは『嫌われる勇氣』韓国語版で、2016年5月に発行された続編『幸せになる勇氣』韓国語版も6月に訪れた当時の書店でも週間ベストセラー入りし山積みされていた。日本ブースの販売でも益田ミリ氏の作品が何点も目についたが、その大人気ぶりは日本国内以上だ。東野圭吾氏、村上春樹氏などの日本の人気作家作品も相変わらずベストセラー常連。またコミックや文学には遠く及ばないが、理系と社会科学ジャンルも2015年だけでもそれぞれ250点以上が韓国語で翻訳出版されているという。



韓国語版  
『嫌われる勇  
氣』シリーズ

## 所感

普段ニュースを見ていると、韓国と日本の二国関係はますますこじれ、一般の人の韓国に対するイメージも悪化する一方の様子だが、マスコミで報道されているような点だけを見て韓国や韓国の人を判断せず、例えば上記のような面もあるのだということを声を大に

して申し上げたいと思う。

今回のアテンダントは、ハム・スンへさんとチョ・ジウォンさん。二人とも留学や仕事で日本生活を経験していて、日本語も完璧で様々なサポートしてもらった。彼らからは、ほんの一握りの人しかまとな生活ができる職に就けない社会の歪み、その僅かな枠をめぐっての幼少からの熾烈な競争、そもそも生まれた時からずっと埋めることのできない格差、就職後も変わらぬ生存競争等、韓国の大変な状況をこれでもかというほど聞かされた。その後起こった朴大統領に対しての一連の出来事も、人々、特に若い世代の不満や不公平感、絶望感がこれ以上ないほど高まっているという背景、何十年も積み重ねてきた社会の歪みがついに爆発した結果と言えるのではないか。次回の図書展の頃にはどのようなになっているのか、韓国も、日韓両国関係も。

有意義なお話をたくさん聞かせていただき、ブース運営でもすっかりお世話になった国際交流基金ソウル日本文化センター山崎所長、勝田さん、チョンさん、シンさん、本会プレーンの館野さん、落合さん、アテンダントのハムさん、チョさん、国際交流基金本部の湯橋さんはじめ皆様に今回も心よりお礼を申し上げたい。

## 第68回フランクフルト・ブックフェア

名称：Frankfurt Book Fair 2016  
会期：2016年10月19日(水)～23日(日)  
会場：フランクフルト国際見本市会場  
主催：ドイツ出版社・書籍販売店協会  
参加国：100ヶ国以上(104ヶ国)  
出展社数：7,153社(7,145社)  
ドイツ国内2,432社(2,428社)  
ドイツ以外4,721社(4,717社)  
入場者数：278,023人(275,791人、前年比0.8%増、以下同)、このうちトレードビジターは142,300人(140,474人、1.3%増)、一般入場者は135,723人(135,317人、0.3%増)  
( )内は2015年実績  
登録報道関係者：10,000人(含むブロガー2,000人)  
付帯イベント：4,000以上  
テーマ国：フランダース/オランダ

今年も雨模様の天候が続く中での開催となった。会場全体の構成変更によりアクセスが短くコンパクトになって2年目、今年のフェアは少し落ち着いた雰囲気の中で開催された。上記のとおり出展社、入場者数とも微増、ほぼ昨年並みの数字が発表されている。今回のテーマ国はフランダース／オランダが選ばれ、フォーラム館には”THIS IS WHAT WE SHARE“のテーマの下、文学、美術、児童等の分野を中心に22ヶ国180社から700点を超える関連図書が集められ見応えのある展示となった。また5号館の同国ブースでも多彩な付帯イベントが催された。来年の第69回フランクフルト・ブックフェアの会期は2017年10月11日(水)～15日(日)、フランスがテーマ国として取りあげられる。

### 日本の出展状況 — 日本のイメージが変わり、取引先から好印象だった

日本からは31社が出展したが、出展会場は3号館(コミック・旅行関連、ドイツの出展社)、4号館(アジア諸国、学術・専門書・芸術書)、6号館(英米語圏出展社、エージェントコーナー)と多岐にわたった。本会では4号館1階(Hall 4.0)の入り口正面に単一出展社ブースとインフォメーション・センター、共同展示場からなる日本会場(展示面積128㎡)を構成した。



4号館1階の日本会場

今回は出展出版各社のご協力をいただきブースデザインを統一、日本としての一体感を全面に出した会場を構成し、天井から社名表示の標識を吊るすなど遠距離からも目立つ工夫を凝らした。

Hall4.0の中のベストポジションに配置されたこと、さらに同じ通路に並んだ各ブースの相乗効果が現れ、実際昨年よりも新規顧客との商談が増えたと答え

る出展社ブースが多かった。

開催2日目の夕刻、7年振りに実施した立食パーティーの”Happy Hour Japan”には予想を超えるおおよそ200名の参加者があり、通路が溢れんばかりの盛況で日本会場を明るく盛りあげる大きな役割を果たした。出展社からは「厳しい商談交渉とは別に取引先と懇親を深める場となり有意義だった、次回もぜひ開催してほしい」という声を多くいただいた。なかにはもっと日本としての「おもてなし感」が出れば更によいというご意見もいただいた。



ハッピー・アワーパーティー

次回に向けては、今回の成果を土台に多くの方のご協力をいただきながら日本からの出展社を増やしていく方策を探っていきたい。

なお、本会では今年度もFBF参加事業経費について、「地域発コンテンツ海外流通基盤整備事業費(略称JLOP)補助金」を申請し、受理されている。



交流会スタンド

### 出展状況の個別概要

— 新規顧客との商談増える、商談相手国は28ヶ国  
日本共同展示場(40㎡)

日本インフォメーション・センター(16㎡)と共同展示場(計24㎡)で構成。

日本インフォメーション・センターは国際交流基金と本会の共催で運営し、来場者からの様々な要請、問合せに対応した。

共同展示場には、国際交流基金予算による図書の展示コーナー、壁面1m幅を基本とした6出展社のコーナー展示スペース、および出版2団体である(一社)自然科学書協会、(一社)大学出版部協会の展示コーナーを設けた。



1m幅のコーナー展示スペース

国際交流基金購入の図書は英文版の「Books on Japan」関連の図書を中心に、文学書、伝統文化、日本語学習教材から和食、コミック、Pop Culture、ファッション誌まで多岐の分野にわたる94社240点余を展示・紹介した。特に週末のパブリックデーには最も多くの来場者が訪れる展示コーナーとなった。同コーナーでは在ケルン日本文化会館の高羽洋充副館長及び大久保和正事務局長による来場者への丁寧な応接が目立った。

1m幅のコーナー展示スペースには鹿嶋国際著作権事務所、光文社、三修社、トーハン、日経BP社、ポプラ社の6社から申込みをいただいた。コーナー展示スペースには基本的に展示棚4段に平台、テーブル、イスが用意され各社の担当者が精力的に版權交渉の商談を進めていた。このコーナーではエージェンツ・センターと異なり展示棚スペースから実際の図書を取って商談に使える利点もあり、ある出展社からは「Hall 6や5から来やすいのか、期待以上に来訪者があり、事前にアポなしでのミーティング機会も得られた」とのコメントをいただいた。

出版2団体からの出展社・出展数は以下の通り。

自然科学書協会：17社 43点

大学出版部協会：20部 32点

合計：37社(部) 75点

期間中、大学出版部協会の英文カタログの送付希望、デジタル関連、翻訳出版等の問い合わせがあり、帰国

後同協会へ報告、対応をお願いした。

## 単独ブース出展

下記5社が共同展示場の周囲に単独ブースを構えた。学研プラス(8㎡)、講談社(32㎡)、小学館(32㎡)、ディスカヴァー・トゥエンティワン(4㎡)、日本著作権輸出センター(12㎡)。

出展各社では英文サマリー、サンプル翻訳を始め様々な準備、工夫を凝らして商談に臨んでいたが、終了後の出展社へのアンケートによると、各社のビジネス評価はほとんどが「まあまあ良い」という回答だった。新規飛び込みを含め会期中に70件の商談をこなした社もあれば、新しい作品の成約見込みについて90%という回答を寄せた社もある。商談対象はマンガ、絵本、日本語教材に加えて一般書、実用書という分野も挙がり、商談相手国も欧米諸国を中心に中南米、アジア、中東地域と28ヶ国の国々に広がっている。

## 書誌情報の事前発信

### 一 商談における必須基本アイテム

今回も日本文学出版交流センター(略称J-Lit)のご協力をいただき、出展図書の書誌情報を事前に発信する体制を敷いた。具体的には、J-Litのウェブサイト”Books from Japan”上に出版2団体のすべての出展図書について英文書誌情報を掲載し、世界の出版関係者に事前周知するシステムを実施した。さらにそのカラープリント版を展示図書ごとにA4判で用意し、展示図書に付して来場者に紹介した。

毎年、参加にあたっては以下の機関、団体からご協力をいただいている。

### 在フランクフルト日本国総領事館

今回の日本総領事館ブースは、日本インフォメーション・センターからは少し離れたロケーションとなったが、週末のパブリックデーには広報文化担当の小暮 遼副領事、岩佐のみ氏らを中心に、折り紙、書道等の実演会が開かれ、来場者の人気を博した。

### (一社) いけばなインターナショナル

今回も同法人フランクフルト支部の全面的なご協力をいただき、日本会場の各ブースに生け花作品を飾り、日本文化の彩りを添えた。英文の機関紙『IKEBANA International』は人気が高く、用意した100冊がすべて捌けた。

## 2017年に開催される主な国際ブックフェア

国際ブックフェア名	会期	国・地域名
1. ニューデリー国際ブックフェア	1月7日～15日	インド
2. コルカタ国際ブックフェア	1月25日～2月5日	インド
3. カイロ国際ブックフェア	1月27日～2月10日	エジプト
4. 台北国際ブックフェア	2月8日～13日	台湾
5. カサブランカ/出版と本の国際サロン	2月9日～19日	モロッコ
6. ハバナ国際ブックフェア	2月9日～19日	キューバ
7. ビリニウス・ブックフェア	2月23日～26日	リトアニア
8. マスカット国際ブックフェア	2月22日～3月4日	オマーン
9. ラトビア国際ブックフェア	2月24日～26日	ラトビア
10. ドバイ国際ブックフェア	3月3日～11日	アラブ首長国連邦
11. リヤド国際ブックフェア	3月8日～18日	サウジアラビア
12. ブラッセル国際ブックフェア	3月9日～13日	ベルギー
13. ベネズエラ国際ブックフェア	3月9日～18日	ベネズエラ
14. ロンドン国際ブックフェア	3月14日～16日	イギリス
15. ライプチヒ・ブックフェア	3月23日～26日	ドイツ
16. パリ・ブックフェア	3月24日～27日	フランス
17. チュニス国際ブックフェア	3月24日～4月2日	チュニジア
18. アレキサンドリア国際ブックフェア	3月23日～4月4日	エジプト
19. バンコク国際ブックフェア	3月29日～4月9日	タイ
20. ボローニャ国際児童書ブックフェア	4月3日～6日	イタリア
21. ケベック国際ブックフェア	4月5日～9日	カナダ
22. ダナン国際ブックフェア	4月19日～23日	ベトナム
23. ブダペスト国際ブックフェア	4月20日～23日	ハンガリー
24. ボゴタ国際ブックフェア	4月25日～5月8日	コロンビア
25. ジュネーブ国際ブックフェア	4月26日～30日	スイス
26. アブダビ国際ブックフェア	4月26日～5月2日	アラブ首長国連邦
27. クアラルンプール国際ブックフェア	4月27日～5月7日	マレーシア
28. ブエノスアイレス国際ブックフェア	4月27日～5月15日	アルゼンチン
29. テヘラン国際ブックフェア	5月3日～13日	イラン
30. ナイジェリア国際ブックフェア	5月8日～13日	ナイジェリア
31. プラハ国際ブックフェア	5月11日～14日	チェコ
32. テッサロニキ・ブックフェア	5月11日～14日	ギリシャ
33. ワルシャワ国際ブックフェア	5月18日～21日	ポーランド
34. トリノ国際ブックフェア	5月18日～22日	イタリア
35. ブカレスト国際ブックフェア	5月24日～28日	ルーマニア
36. サンクトペテルブルグ国際ブックフェア	5月25日～28日	ロシア
37. ブックエキスポ・アメリカ	5月31日～6月2日	アメリカ
38. リスボン国際ブックフェア	6月1日～18日	ポルトガル

国際ブックフェア名	会期	国・地域名
39. エルサレム国際ブックフェア(隔年)	6月11日～15日	イスラエル
40. ソウル国際ブックフェア	6月14日～18日	大韓民国
41. カザフスタン国際ブックフェア	6月15日～18日	カザフスタン
42. 香港ブックフェア	7月19日～25日	中国
43. 北京国際ブックフェア	8月23日～27日	中国
44. ガーナ国際ブックフェア	8月24日～27日	ガーナ
45. リオデジャネイロ国際ブックフェア(隔年)	8月31日～9月10日	ブラジル
46. インドネシア国際ブックフェア	9月6日～10日	インドネシア
47. モスクワ国際ブックフェア	9月6日～10日	ロシア
48. サウス・アフリカ国際ブックフェア	9月8日～10日	南アフリカ
49. リビフ国際ブックフェア	9月13日～17日	ウクライナ
50. マニラ国際ブックフェア	9月13日～17日	フィリピン
51. ナイロビ国際ブックフェア	9月27日～10月1日	ケニヤ
52. バク国際ブックフェア	9月28日～30日	アゼルバイジャン
53. ヨーテボリ・ブックフェア	9月28日～10月1日	スウェーデン
54. リベール国際ブックフェア(Madrid)	10月4日～6日	スペイン
55. メキシコ国際児童ブックフェア	10月11日～15日	メキシコ
56. フランクフルト・ブックフェア	10月11日～15日	ドイツ
57. ドーハ国際ブックフェア	10月12日～11月30日	カタール
58. サンティアゴ国際ブックフェア	10月22日～29日	チリ
59. ベオグラード国際ブックフェア	10月22日～29日	セルビア
60. ヘルシンキ国際ブックフェア	10月26日～29日	フィンランド
61. ベトナム国際ブックフェア	10月31日～11月11日	ベトナム
62. アントワープ国際ブックフェア	10月31日～11月11日	ベルギー
63. シャールジャ国際ブックフェア	11月1日～11日	アラブ首長国連邦
64. クラスノヤルスク国際ブックフェア	11月2日～6日	ロシア
65. イスタンブール国際ブックフェア	11月4日～12日	トルコ
66. ザグレブ国際ブックフェア	11月7日～12日	クロアチア
67. ウィーン国際ブックフェア	11月8日～12日	オーストリア
68. マルタ国際ブックフェア	11月8日～12日	マルタ
69. モントリオール国際ブックフェア	11月15日～20日	カナダ
70. 上海国際児童書ブックフェア	11月17日～19日	中国
71. クウェート国際ブックフェア	11月25日～12月2日	クウェート
72. グアダハラ国際ブックフェア	11月25日～12月3日	メキシコ
73. ノンフィクション国際ブックフェア(モスクワ)	11月29日～12月3日	ロシア
74. バイルート国際ブックフェア	11月30日～12月13日	レバノン
75. アルジェ国際ブックフェア	12月6日～10日	アルジェリア
76. カラチ国際ブックフェア	12月12日～17日	パキスタン

一般社団法人出版文化国際交流会     101-0064 東京都千代田区猿樂町 1-2-1     <http://www.pace.or.jp>  
 発行人：竹内和芳 編集人：横手多仁男     Tel: (03)3291-5685 Fax: (03)3233-3645     E-mail: [culturalexchange@pace.or.jp](mailto:culturalexchange@pace.or.jp)